

4 在宅生活改善調査

(1) 事業所調査

1-1 ケアマネジャーの人数、利用者数

問1 貴事務所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

所属ケアマネジャーの人数は、21 事業所で合計 78 人となっています。

自宅等に居住する利用者数は、21 事業所で合計 1,836 人となっています。

サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームのいずれかに居住する利用者数は、21 事業所で合計 274 人となっており、利用者数は総計 2,110 人となっています。

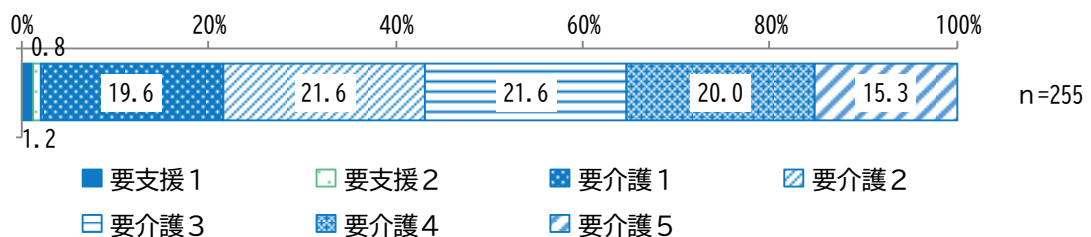
	件数	合計（人）	最小値	最大値
1) 所属ケアマネジャーの人数	21	78	1	8
2) 利用者数／自宅等に居住	21	1,836	3	180
3) 利用者数／サ高住等に居住	21	274	0	130

1-2 居場所を変更した利用者数（要介護度別）

問2 貴事務所において、過去1年の間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を要介護度別にご記入ください。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者は、21 事業所で合計 255 人となっています。

要介護度別でみると、要介護2・3（ともに 21.6%）が最も高く、次いで要介護4（20.0%）、要介護1（19.6%）となっています。



1-3 居場所を変更した利用者数（行き先別）

問3 貴事務所において、過去1年の間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から居場所を変更した利用者数」を行き先別にご記入ください。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者数 241 人^{※1}を行先別でみると、市内が195人（80.9%）、市外が43人（17.8%）となっています。市内では「介護老人保健施設」が68人（28.2%）で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」が41人（17.0%）、「サービス付き高齢者向け住宅」が28人（11.6%）、「グループホーム」が15人（6.2%）となっています。市外では「サービス付き高齢者向け住宅」が12人（5.0%）、「兄弟・子ども・親戚等の家」が8人（3.3%）、「介護老人保健施設」が7人（2.9%）となっています。

また、自宅等で死亡した利用者数は合計193人でした。

事業所調査の回収率（21/34=61.8%）から逆算すると、安城市全体で過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者数（粗推計^{※2}）は390人、安城市全体で過去1年間に自宅等で死亡した利用者数（粗推計）は312人となります。

※1 問2の255人と異なるのは、問2で死亡者を含めて回答した事業所があったため。

※2 「粗推計」は、利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

行先	市内	市外	合計
1) 兄弟・子ども・親戚等の家	3 1.2	8 3.3	11 4.6
2) 住宅型有料老人ホーム	13 5.4	5 2.1	18 7.5
3) 軽費老人ホーム	4 1.7	0 0.0	4 1.7
4) サービス付き高齢者向け住宅	28 11.6	12 5.0	40 16.6
5) グループホーム	15 6.2	1 0.4	16 6.6
6) 特定施設	1 0.4	1 0.4	2 0.8
7) 地域密着型特定施設	7 2.9	0 0.0	7 2.9
8) 介護老人保健施設	68 28.2	7 2.9	75 31.1
9) 療養型・介護医療院	1 0.4	3 1.2	4 1.7
10) 特別養護老人ホーム	41 17.0	5 2.1	46 19.1
11) 地域密着型特別養護老人ホーム	7 2.9	0 0.0	7 2.9
12) その他	7 2.9	1 0.4	8 3.3
13) 行先を把握していない			3 1.2
合計（死亡者数を含まない）	195 80.9	43 17.8	241 100.0

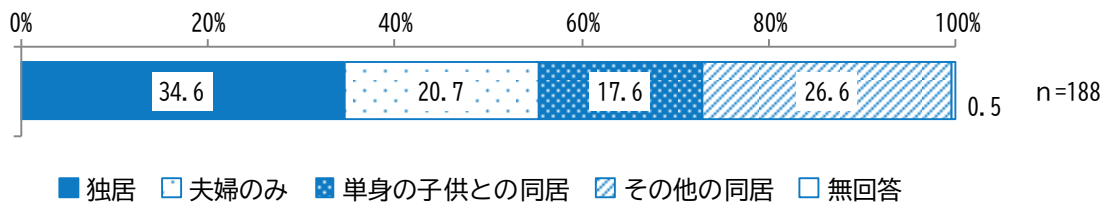
(2) 利用者調査

2-1 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

問1 対象となる利用者の状況等について、お伺いします。

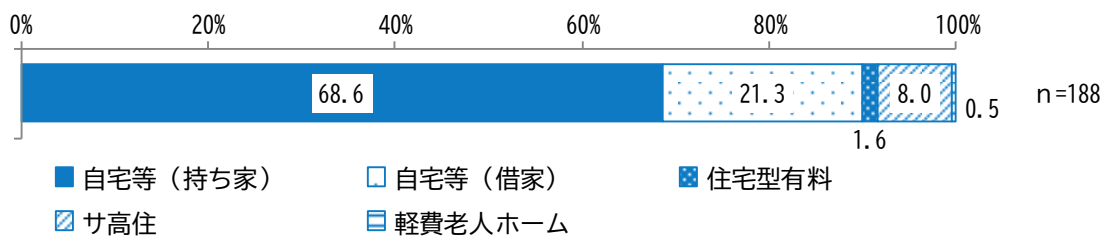
問1-1 世帯類型 (番号1つ選択)

生活の維持が難しくなっている利用者 (188 人) の世帯類型は、「独居」(34.6%) が最も高く、次いで「その他の同居」(26.6%)、「夫婦のみ」(20.7%)、「単身の子供との同居」(17.6%) となっています。



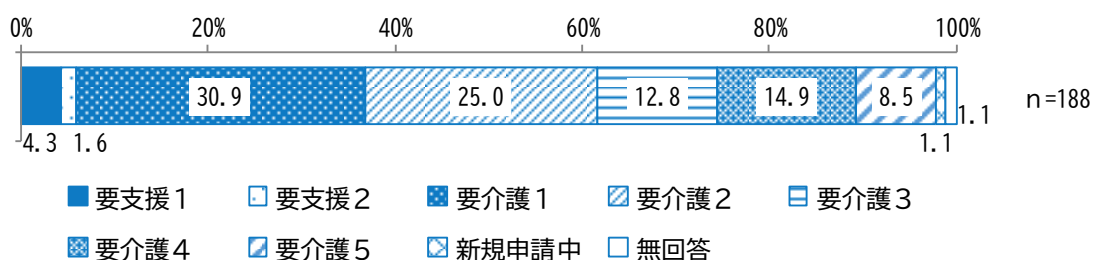
問1-2 現在の居所 (番号1つ選択)

現在の居所は、「自宅等 (持ち家)」(68.6%) が最も高く、次いで「自宅等 (借家)」(21.3%) となっており、自宅等が合計 89.9% となっています。また、サ高住 (サービス付き高齢者向け住宅) 等は合計 10.1% となっています。



問1-3 要支援・要介護度 (番号1つ選択)

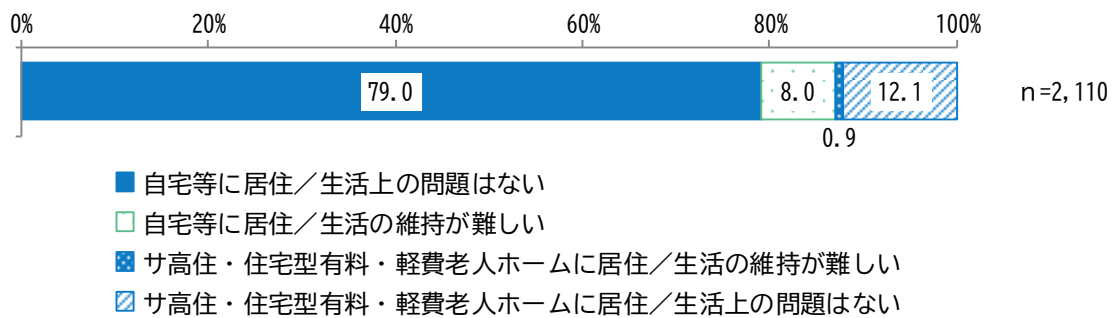
要介護度は、「要介護1」(30.9%) が最も高く、次いで「要介護2」(25.0%)、「要介護4」(14.9%) となっています。『要介護2以下』(要支援1～要介護2) は 61.8%、『要介護3以上』(要介護3～要介護5) は 36.2% となっています。



<現在、在宅での生活が難しくなっている利用者の割合>

生活の維持が難しくなっている利用者（188人）の現在の居所データ（自宅等169人、サ高住等19人）から、事業所調査問1で把握した利用者（2,110人）について、居所のタイプごとに生活の維持が難しくなっている利用者を割り出すと、「自宅等に居住／生活の維持が難しい」利用者は8.0%、「サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住／生活の維持が難しい」利用者は0.9%で、生活の維持が難しくなっている利用者の割合は合計8.9%となっています。

事業所調査の回収率（61.8%）から逆算すると、安城市全体で在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数（粗推計）は304人となります。



生活の維持が難しくなっている利用者（188人）を3属性（世帯類型、現在の居所、要支援・要介護度）を組み合わせた類型別でみると、「独居／自宅等（持ち家）／要介護2以下」（15.4%）が最も高く、次いで「その他の同居／自宅等（持ち家）／要介護2以下」（11.2%）となっています。「自宅等（持ち家）／要介護2以下」を含む4類型がいずれも上位に入っています。

順位（上位10類型）	回答数（人）	粗推計（人）	割合（%）	世帯類型	現在の居所	要支援・要介護度
1	29	47	15.4	独居	自宅等（持ち家）	要介護2以下
2	21	34	11.2	その他の同居	自宅等（持ち家）	要介護2以下
3	20	32	10.6	その他の同居	自宅等（持ち家）	要介護3以上
4	17	28	9.0	独居	自宅等（借家）	要介護2以下
4	17	28	9.0	夫婦のみ世帯	自宅等（持ち家）	要介護2以下
4	17	28	9.0	単身の子供との同居	自宅等（持ち家）	要介護2以下
7	10	16	5.3	単身の子供との同居	自宅等（持ち家）	要介護3以上
8	9	15	4.8	夫婦のみ世帯	自宅等（持ち家）	要介護3以上
9	6	10	3.2	独居	サ高住・住宅型有料・軽費	要介護3以上
10	5	8	2.7	夫婦のみ世帯	自宅等（借家）	要介護3以上
上記以外	37	60	19.7			
合計	188	304	100.0			

※「上記以外」には、要支援・要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

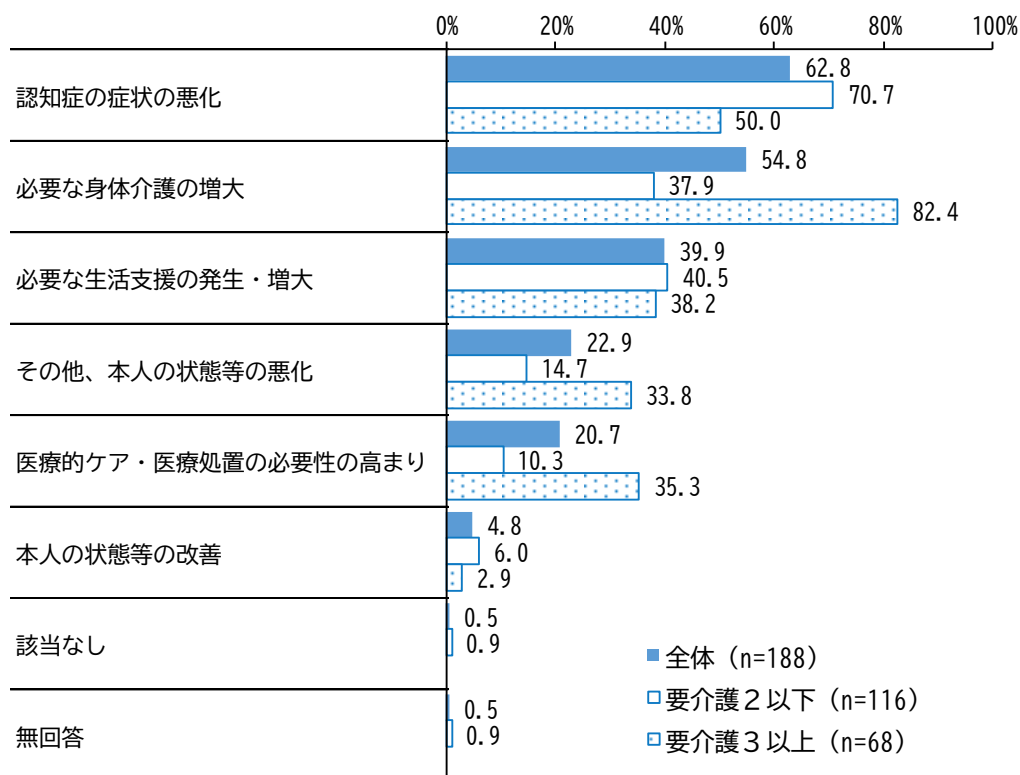
2-4 現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている理由

問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお答えください。（あてはまる番号すべて選択）

問2-1 本人の状態等に属する理由について、お答えください。

本人の状態等に属する理由としては、「認知症の症状の悪化」(62.8%)が最も高く、次いで「必要な身体介護の増大」(54.8%)、「必要な生活支援の発生・増大」(39.9%)となっています。

要介護度別で見ると、要介護2以下では「認知症の症状の悪化」(70.7%)が最も高く、次いで「必要な生活支援の発生・増大」(40.5%)、「必要な身体介護の増大」(37.9%)となっています。一方、要介護3以上では「必要な身体介護の増大」(82.4%)が最も高く、次いで「認知症の症状の悪化」(50.0%)、「必要な生活支援の発生・増大」(38.2%)となっています。

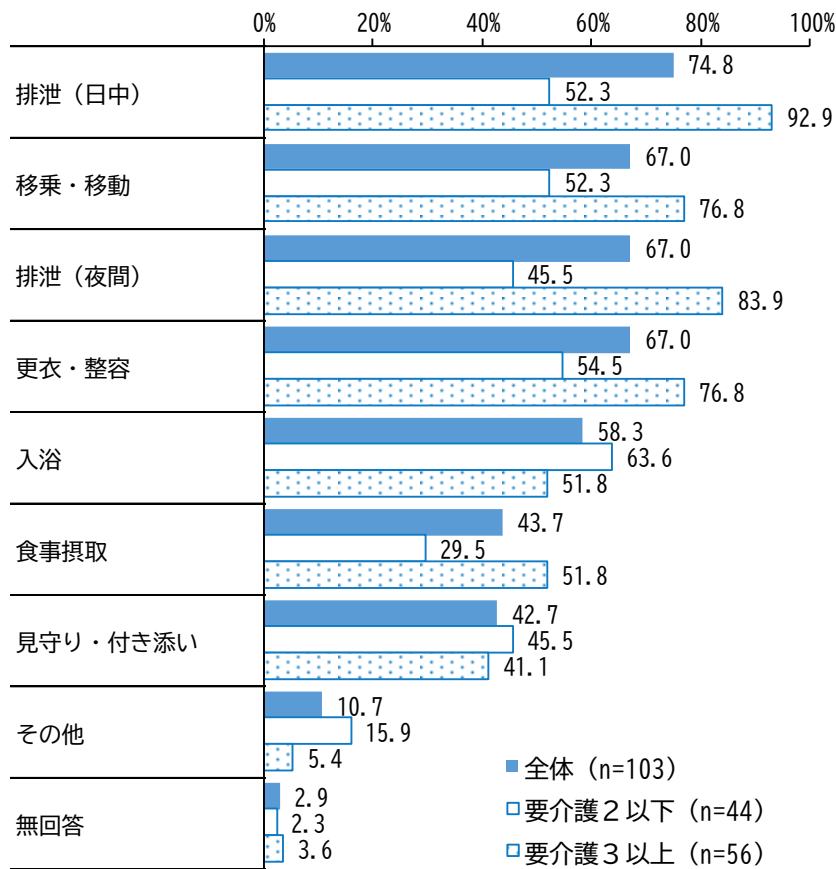


問2-1で「3. 必要な身体介護の増大」を選択の場合

問2-4 理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください。

「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容は、「排泄（日中）」（74.8%）が最も高く、次いで「移乗・移動」「排泄（夜間）」「更衣・整容」（いずれも 67.0%）となっています。

要介護度別でみると、要介護2以下では「入浴」（63.6%）が最も高く、次いで「更衣・整容」（54.5%）、「移乗・移動」「排泄（日中）」（ともに 52.3%）となっています。一方、要介護3以上では「排泄（日中）」（92.9%）が最も高く、次いで「排泄（夜間）」（83.9%）、「移乗・移動」「更衣・整容」（ともに 76.8%）となっています。

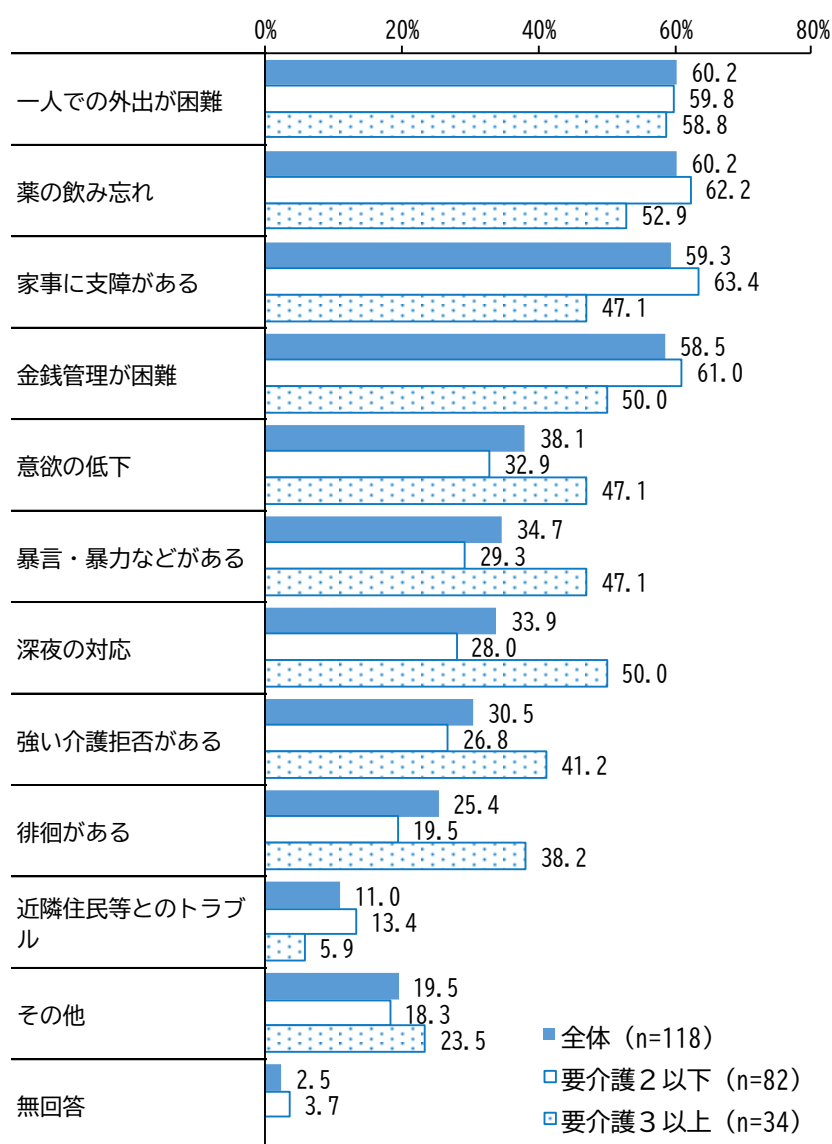


問2-1で「4. 認知症の症状の悪化」を選択の場合

問2-5 理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください。

「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容は、「一人での外出が困難」「薬の飲み忘れ」（ともに 60.2%）が最も高く、これらに次いで「家事に支障がある」（59.3%）、「金銭管理が困難」（58.5%）となっています。

要介護度別でみると、要介護2以下では「家事に支障がある」（63.4%）が最も高く、次いで「薬の飲み忘れ」（62.2%）、「金銭管理が困難」（61.0%）、「一人での外出が困難」（59.8%）となっています。一方、要介護3以上では「一人での外出が困難」（58.8%）が最も高く、次いで「薬の飲み忘れ」（52.9%）、「金銭管理が困難」「深夜の対応」（ともに 50.0%）となっています。

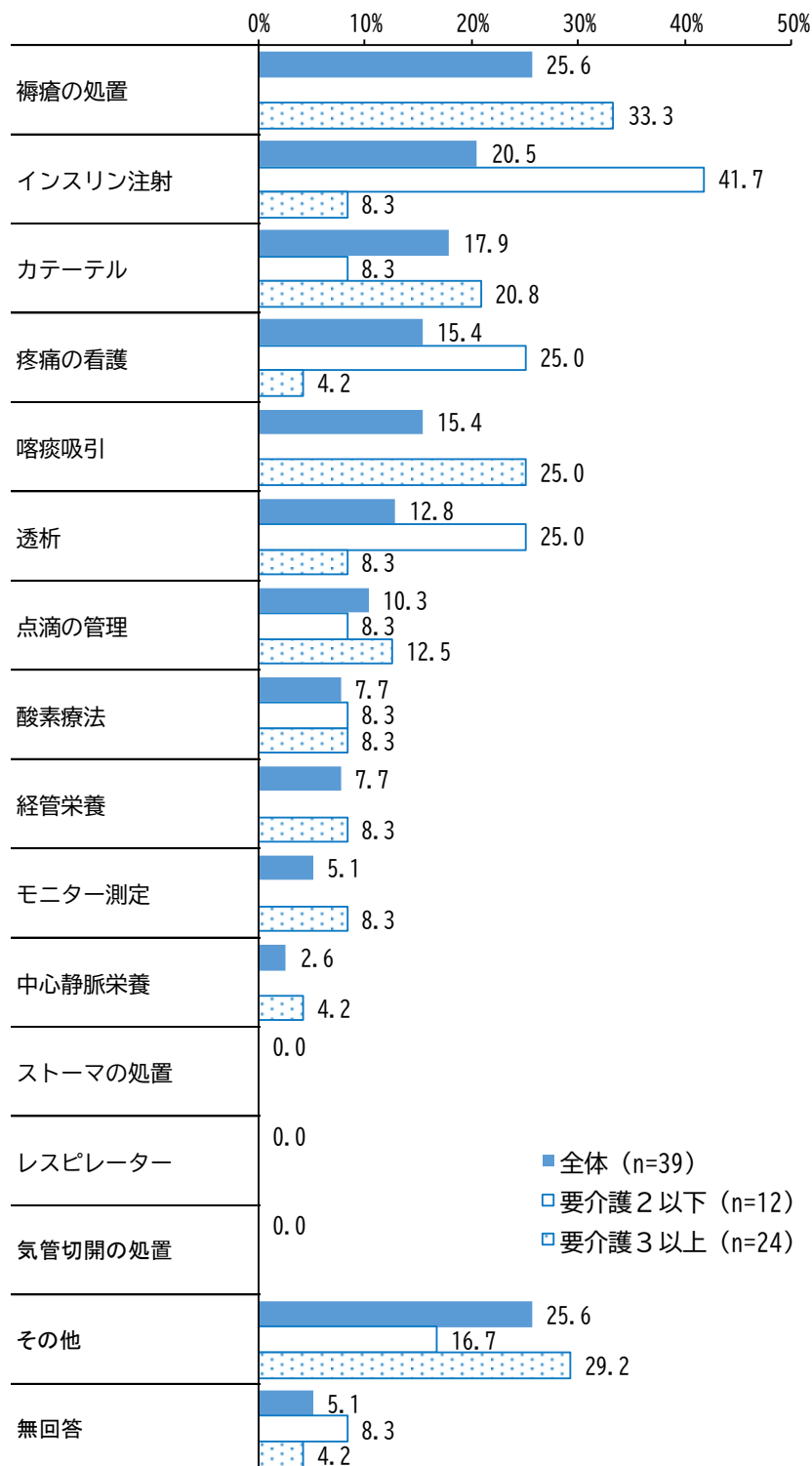


問2-1で「5. 医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択の場合

問2-6 理由となる、具体的な「医療的ケア」「医療処置」をお答えください。

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容は、「褥瘡の処置」「その他」（ともに 25.6%）が最も高く、これらに次いで「インスリン注射」（20.5%）、「カテーテル」（17.9%）となっています。

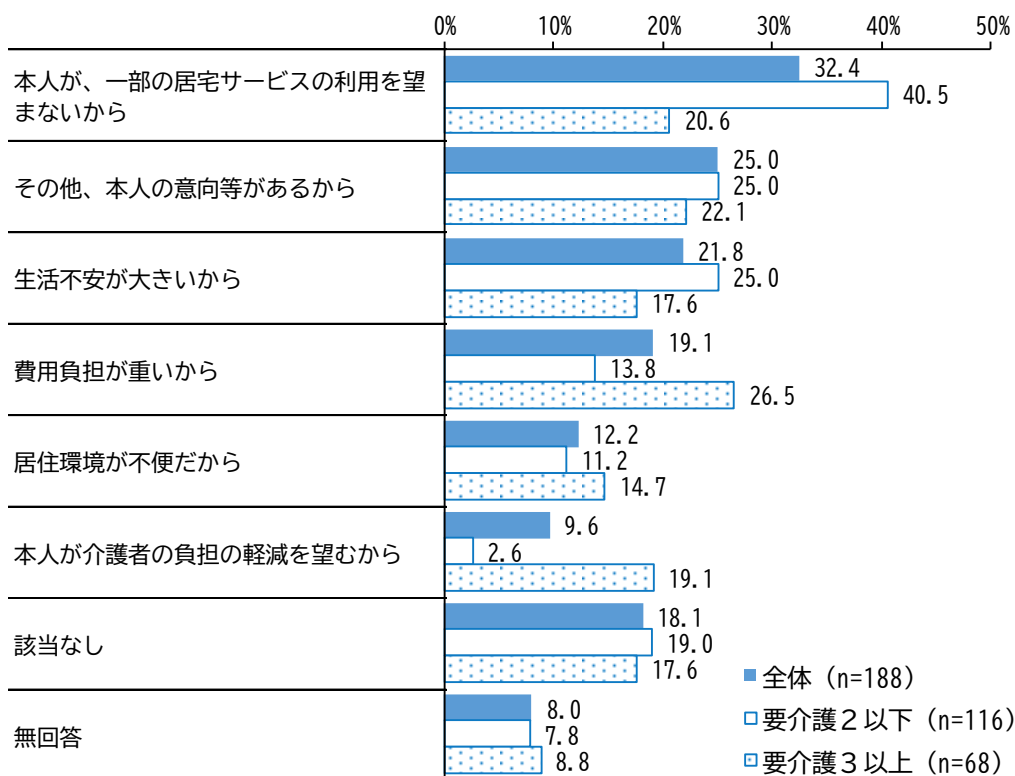
要介護度別でみると、要介護2以下では「インスリン注射」（41.7%）が最も高く、次いで「透析」「疼痛の看護」（ともに 25.0%）、「その他」（16.7%）となっています。一方、要介護3以上では「褥瘡の処置」（33.3%）が最も高く、次いで「その他」（29.2%）、「喀痰吸引」（25.0%）、「カテーテル」（20.8%）となっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお答えください。（あてはまる番号すべて選択）
 問2-2 主に本人の意向等に属する理由について、お答えください。

本人の意向等に属する理由としては、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」(32.4%) が最も高く、次いで「その他、本人の意向等があるから」(25.0%)、「生活不安が大きいから」(21.8%) となっています。

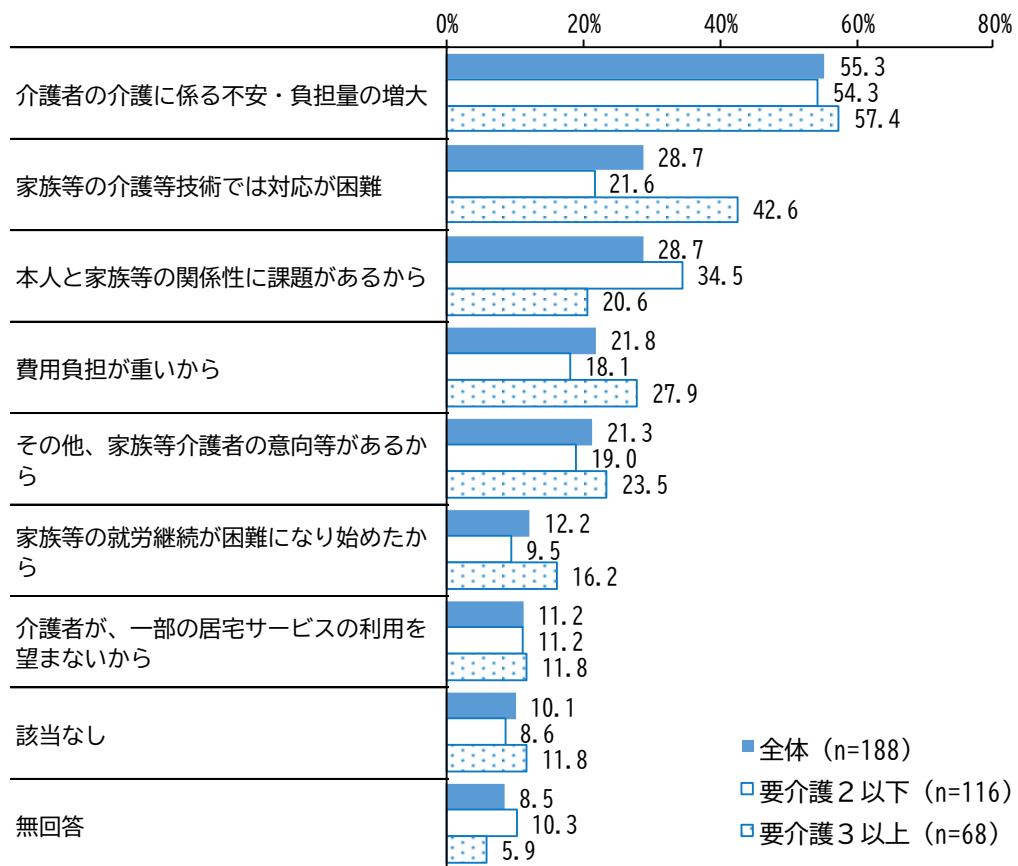
要介護度別でみると、要介護2以下では「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」(40.5%) が最も高く、次いで「生活不安が大きいから」「その他、本人の意向等があるから」(ともに25.0%) となっています。一方、要介護3以上では「費用負担が重いから」(26.5%) が最も高く、次いで「その他、本人の意向等があるから」(22.1%)、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」(20.6%) となっています。



問2-3 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由について、お答えください。

家族等介護者の意向・負担等に属する理由としては、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」(55.3%)が最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」「本人と家族等の関係性に課題があるから」(ともに28.7%)となっています。

要介護度別で見ると、要介護2以下では「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」(54.3%)が最も高く、次いで「本人と家族等の関係性に課題があるから」(34.5%)、「家族等の介護等技術では対応が困難」(21.6%)となっています。一方、要介護3以上では「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」(57.4%)が最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」(42.6%)、「費用負担が重いから」(27.9%)となっています。

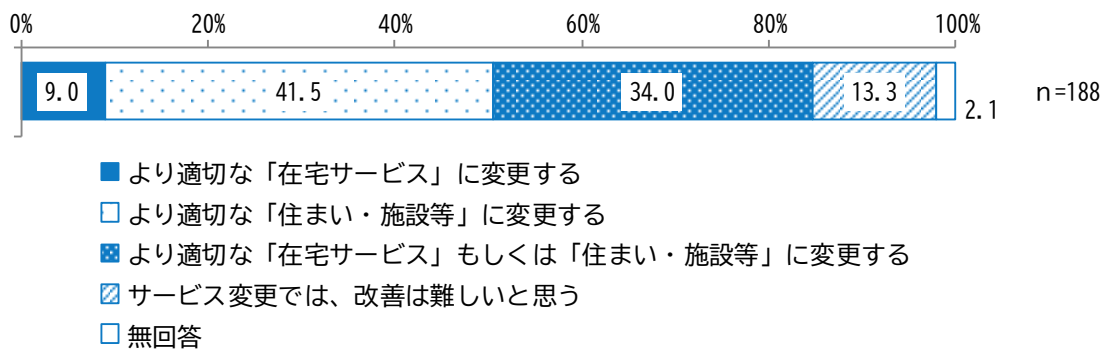


2-5 在宅生活改善のためのサービス利用の変更等の意向

問3 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について、お伺いします。

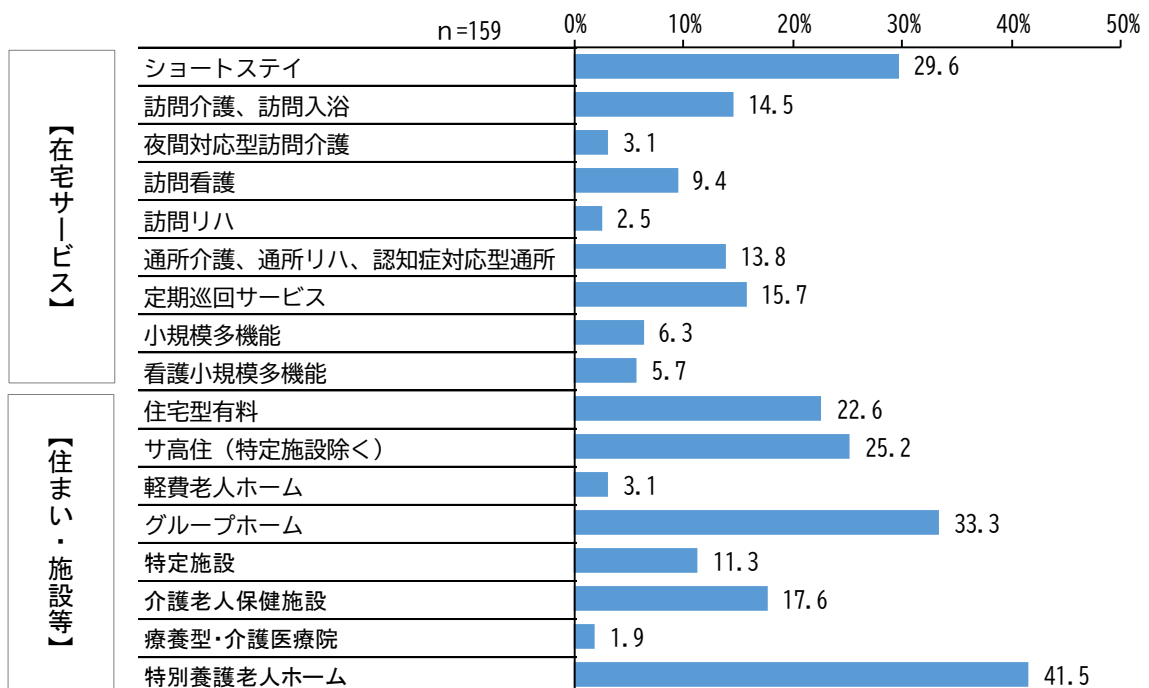
問3-1 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。
 (番号1つ選択)

「より適切な「住まい・施設等」に変更する」(41.5%)が最も高く、次いで「より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する」(34.0%)となっています。また、「サービス変更では、改善は難しいと思う」は13.3%となっています。



問3-2 問3-1で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください。(あてはまる番号すべて選択)

生活の改善に必要な具体的なサービスは、【在宅サービス】では「ショートステイ」(29.6%)が最も高く、次いで「定期巡回サービス」(15.7%)、「訪問介護、訪問入浴」(14.5%)となっています。一方、【住まい・施設等】では「特別養護老人ホーム」(41.5%)が最も高く、次いで「グループホーム」(33.3%)、「サ高住(特定施設除く)」(25.2%)となっています。



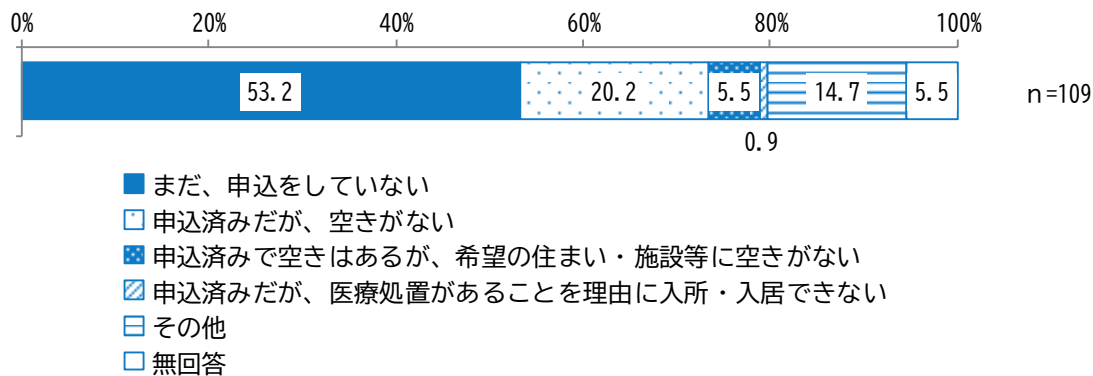
II 調査の結果 4 在宅生活改善調査

問3-2で特養以外の<住まい・施設等>（「10. 住宅型有料」～「16. 療養型・介護医療院」）を選択の場合

問3-4 入所・入居できていない理由をお答えください。（番号1つ選択）

特養以外の住まい・施設等を必要とする利用者のまだ入所・入居できていない理由は、「まだ、申込をしていない」（53.2%）が最も高く、次いで「申込済みだが、空きがない」（20.2%）となっています。

要介護度別でみると、「申込済みだが、空きがない」は要介護3以上（25.0%）で高くなっています。



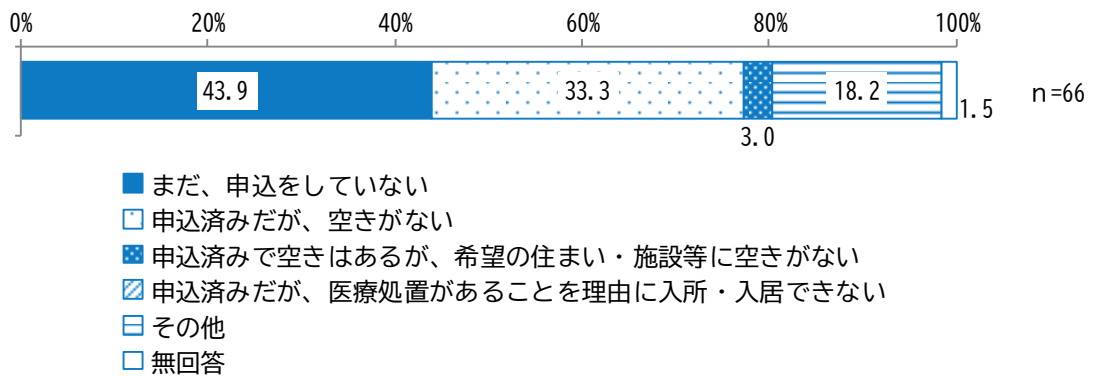
	件数	いまだ、申込をしていない	ない申込みだが、空きがない	設等に希望の住まい・施設に空きがない	が、申込みで空きはない	入所・入居できない	置申込みだが、医療処置に	その他	無回答					
全体	109	58	22	6	1	16	6	100.0	53.2	20.2	5.5	0.9	14.7	5.5
要介護2以下	84	48	16	5	-	11	4	100.0	57.1	19.0	6.0	-	13.1	4.8
要介護3以上	24	10	6	1	1	4	2	100.0	41.7	25.0	4.2	4.2	16.7	8.3

問3-2で「17. 特別養護老人ホーム」を選択の場合

問3-5 特養に入所できていない理由をお答えください。(番号1つ選択)

特養への入所を必要とする利用者のまだ入所できていない理由は、「まだ、申込をしていない」(43.9%)が最も高く、次いで「申込済みだが、空きがない」(33.3%)となっています。

要介護度別でみると、「申込済みだが、空きがない」は要介護3以上(42.9%)で高くなっています。



	件数	まだ、申込をしていない	申込済みだが、空きがない	申込済みで希望の施設に空きがない	申込済みだが、医療処置があることを理由に入所・入居できない	その他	無回答
全体	66	29	22	2	-	12	1
	100.0	43.9	33.3	3.0	-	18.2	1.5
要介護2以下	22	10	3	-	-	9	-
	100.0	45.5	13.6	-	-	40.9	-
要介護3以上	42	18	18	2	-	3	1
	100.0	42.9	42.9	4.8	-	7.1	2.4

5 居所変更実態調査

(1) 施設等の概要

1-1 サービス種別

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。(1つに○)

回答施設等(27施設)のサービス種別(施設等)は、「グループホーム」が11施設、「サービス付き高齢者向け住宅」が4施設、「住宅型有料老人ホーム」「特別養護老人ホーム」がともに3施設、「介護老人保健施設」「地域密着型特別養護老人ホーム」がともに2施設、「軽費老人ホーム」「地域密着型特定施設」がともに1施設となっています。

「特定施設」と「介護療養型医療施設・介護医療院」については、回答がありませんでした。

	件数
住宅型有料	3
軽費老人ホーム	1
サ高住	4
グループホーム	11
特定施設	0
地域密着型特定施設	1
介護老人保健施設	2
療養型・介護医療院	0
特別養護老人ホーム	3
地域密着型特養	2
合計	27

1-2 施設等の概要

問2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

- 2) 定員数など [人・戸・室]
- 3) 入所・入居者数
- 4) (貴施設等の) 待機者数
- 5) 特別養護老人ホームの待機者数(申込者数) ※特養・地域密着型特養は回答不要

定員数は合計 1,173 人(戸・室)、入所・入居者数は合計 1,095 人で、施設等別で見ると下表のようになっています。

入所・入居率(定員数に占める入所・入居者数の割合)は、住宅型有料老人ホーム(80.6%)及び介護老人保健施設(86.5%)では8割台で、その他の施設等ではいずれも9割以上となっています。

	件数	定員数(人・戸・室)		入所・入居者数(人)		入所・入居率(%)
		合計	平均	合計	平均	
住宅型有料	3	144	48.0	116	38.7	80.6
軽費老人ホーム	1	50	50.0	50	50.0	100.0
サ高住	4	165	41.3	153	38.3	92.7
グループホーム	11	207	18.8	205	18.6	99.0
地域密着型特定施設	1	29	29.0	28	28.0	96.6
介護老人保健施設	2	200	100.0	173	86.5	86.5
特別養護老人ホーム	3	320	106.7	312	104.0	97.5
地域密着型特養	2	58	29.0	58	29.0	100.0
合計	27	1,173	43.4	1,095	40.6	93.4

調査回答施設等への待機者数は合計 984 人、特別養護老人ホーム以外の施設等から特別養護老人ホームへの住み替え待機者数(申込者数)は合計 50 人となっています。

施設等別で見ると、待機者数は特別養護老人ホーム(平均 190.7 人)で最も多く、次いで地域密着型特別養護老人ホームで平均 81.5 人、軽費老人ホームで平均 34 人となっています。また、特別養護老人ホームの待機者数(申込者数)は、介護老人保健施設で平均 18 人となっています。

	件数	待機者数(人)		特養の待機(申込)者数(人)	
		合計	平均	合計	平均
住宅型有料	3	5	1.7	2	0.7
軽費老人ホーム	1	34	34.0	0	0.0
サ高住	4	16	4.0	2	0.5
グループホーム	11	181	16.5	7	0.6
地域密着型特定施設	1	10	10.0	3	3.0
介護老人保健施設	2	3	1.5	36	18.0
特別養護老人ホーム	3	572	190.7		
地域密着型特養	2	163	81.5		
合計	27	984	36.4	50	1.9

II 調査の結果 5 居所変更実態調査

1-3 要介護度別の入所・入居者数

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。

現在の入所・入居者の要介護度を施設等別で見ると、住宅型有料老人ホーム及び介護保険施設（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム）では「要介護4」、地域密着型特定施設では「要介護2」、サービス付き高齢者向け住宅及びグループホームでは「要介護1」、軽費老人ホームでは「自立」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

上段：実数（人） 下段：割合（％）

	件数	合計	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明
住宅型有料	3	116 100.0	0 0.0	4 3.4	5 4.3	16 13.8	26 22.4	11 9.5	27 23.3	26 22.4	1 0.9
軽費老人ホーム	1	50 100.0	27 54.0	13 26.0	4 8.0	3 6.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.0
サ高住	4	153 100.0	13 8.5	9 5.9	8 5.2	41 26.8	29 19.0	15 9.8	23 15.0	13 8.5	2 1.3
グループホーム	11	205 100.0			2 1.0	84 41.0	55 26.8	24 11.7	21 10.2	17 8.3	2 1.0
地域密着型特定施設	1	28 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 17.9	9 32.1	6 21.4	5 17.9	3 10.7	0 0.0
介護老人保健施設	2	173 100.0				30 17.3	35 20.2	28 16.2	54 31.2	26 15.0	0 0.0
特別養護老人ホーム	3	312 100.0				3 1.0	1 0.3	102 32.7	135 43.3	71 22.8	0 0.0
地域密着型特養	2	58 100.0				0 0.0	0 0.0	17 29.3	28 48.3	13 22.4	0 0.0
合計	27	1,095 100.0	40 3.7	26 2.4	19 1.7	182 16.6	156 14.2	203 18.5	293 26.8	169 15.4	7 0.6

1-4 医療処置の実施状況

問4 以下の医療処置を受けている人数について、ご記入ください。

医療処置の実施状況は、全体では「喀痰吸引」の割合が最も高く、次いで「経管栄養」「カテーテル」「褥瘡の処置」「酸素療法」「点滴の管理」が高くなっています。

施設等別でみると、医療処置を受けている利用者は特別養護老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、介護老人保健施設が多く、特別養護老人ホームでは「喀痰吸引」、住宅型有料老人ホーム、介護老人保健施設では「経管栄養」、サービス付き高齢者向け住宅では「カテーテル」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

	件数	合計	上段：実数（人） 下段：割合（％）											
			点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストーマの処置	酸素療法	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン注射
住宅型有料	3	49	3	0	2	2	4	0	12	0	5	7	7	7
		100.0	6.1	0.0	4.1	4.1	8.2	0.0	24.5	0.0	10.2	14.3	14.3	14.3
軽費老人ホーム	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
サ高住	4	16	1	1	2	1	2	0	1	0	1	4	3	0
		100.0	6.3	6.3	12.5	6.3	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	25.0	18.8	0.0
グループホーム	11	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
		100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
地域密着型特定施設	1	5	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0
介護老人保健施設	2	32	1	0	0	2	3	0	12	0	2	2	10	0
		100.0	3.1	0.0	0.0	6.3	9.4	0.0	37.5	0.0	6.3	6.3	31.3	0.0
特別養護老人ホーム	3	82	9	0	1	2	7	2	14	1	7	9	28	2
		100.0	11.0	0.0	1.2	2.4	8.5	2.4	17.1	1.2	8.5	11.0	34.1	2.4
地域密着型特養	2	7	0	0	0	2	1	0	0	0	3	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0
合計	27	196	15	1	5	9	17	4	39	1	19	24	50	12
		100.0	7.7	0.5	2.6	4.6	8.7	2.0	19.9	0.5	9.7	12.2	25.5	6.1

※「合計」は重複処置者を含んでおり、医療処置を受けている利用者の実人数とは異なります。

(2) 過去1年間の新規の入所・入居者について

2-1 過去1年間の新規の入所・入居者数

問5 過去1年間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

過去1年間の新規の入所・入居者数は、合計486人、1施設あたり平均18人となっています。

施設等別で見ると、介護老人保健施設で1施設あたり平均83人、特別養護老人ホームで平均38人、住宅型有料老人ホームで平均約19人、サービス付き高齢者向け住宅で平均約18人となっています。

	件数	新規の入所・入居者数（人）	
		合計	平均
住宅型有料	3	56	18.7
軽費老人ホーム	1	4	4.0
サ高住	4	73	18.3
グループホーム	11	42	3.8
地域密着型特定施設	1	13	13.0
介護老人保健施設	2	166	83.0
特別養護老人ホーム	3	114	38.0
地域密着型特養	2	18	9.0
合計	27	486	18.0

2-2 入所・入居前の居場所の状況

問6 問5でご記入いただいた過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

入所・入居前の居場所は、全体では市内「自宅」の割合が最も高く、次いで市内「その他」、市内「介護老人保健施設」、市外「自宅」が高くなっています。

現在の施設等別でみると、地域密着型特定施設では市内「介護老人保健施設」の割合が最も高く、それ以外の施設等では市内「自宅」の割合が最も高くなっています。

	件数	合計	自宅		住宅型有料老人ホーム		年齢サービス付き住宅		グループホーム		特定施設		介護老人保健施設		療養型・介護医療院		特別養護老人ホーム		その他		把握していない	
			市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外		
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合		
住宅型有料	3	56	26	15	1	3	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	5
軽費老人ホーム	1	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
サ高住	4	73	24	6	2	0	0	1	2	1	0	1	15	1	0	0	1	1	8	10	0	
グループホーム	11	42	24	0	0	0	1	0	0	1	0	0	6	0	0	0	1	0	6	2	1	
地域密着型特定施設	1	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	4	0	0	0	0	0	0	
介護老人保健施設	2	166	85	6	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	59	12	0	
特別養護老人ホーム	3	114	30	27	1	1	3	0	5	0	0	0	26	2	0	0	0	0	17	2	0	
地域密着型特養	2	18	6	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	
合計	27	486	201	54	5	4	8	1	8	2	0	2	61	3	4	0	3	1	96	27	6	
		100.0	41.4	11.1	1.0	0.8	1.6	0.2	1.6	0.4	0.0	0.4	12.6	0.6	0.8	0.0	0.6	0.2	19.8	5.6	1.2	

※入所・入居前の居場所の「軽費老人ホーム」「地域密着型特定施設」、「地域密着型特別養護老人ホーム」は、回答なしのため表示していません。

(3) 過去1年間の退去者について

3-1 過去1年間の退去者数

問7 過去1年間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

過去1年間の退去者数（死亡・搬送先での死亡を含む）は、合計 582 人、1施設あたり平均 21.6 人となっています。

施設等別で見ると、介護老人保健施設で1施設あたり平均 131 人、特別養護老人ホームで平均約 38 人、住宅型有料老人ホームで平均約 20 人、サービス付き高齢者向け住宅で平均約 18 人となっています。

過去1年間の新規の入所・入居者数（問5）と比較すると、グループホームを除くすべての施設等で退去者数は入所・入居者以上となっています。

	件数	退去者数（人）		入所・入居者数 -退去者数（人）
		合計	平均	
住宅型有料	3	61	20.3	-5
軽費老人ホーム	1	4	4.0	0
サ高住	4	73	18.3	0
グループホーム	11	35	3.2	7
地域密着型特定施設	1	13	13.0	0
介護老人保健施設	2	262	131.0	-96
特別養護老人ホーム	3	115	38.3	-1
地域密着型特養	2	19	9.5	-1
合計	27	582	21.6	-96

3-2 退去者の要介護度

問8 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

退去者の要介護度は、全体では「死亡」の割合が最も高く、次いで「要介護4」「要介護5」「要介護3」の割合が高くなっています。

施設等別でみると、死亡を除いて、特別養護老人ホームでは「要介護5」、地域密着型特別養護老人ホームでは「要介護4」「要介護5」、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、介護老人保健施設では「要介護4」、サービス付き高齢者向け住宅では「要介護1」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

現在の入所・入居者数に占める退去者数の割合をみると、全体では「要介護5」で52.7%、「要介護4」で41.6%となっています。

施設等別でみると、サービス付き高齢者向け住宅、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホームでは「要介護5」、住宅型有料老人ホームでは「要介護3」、軽費老人ホームでは「要介護1」、グループホームでは「要支援2」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

上段：実数（人） 下段：割合（%）

	件数	合計	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	新規申請中	死亡
住宅型有料	3	61 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0	3 4.9	7 11.5	4 6.6	0 0.0	46 75.4
軽費老人ホーム	1	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0
サ高住	4	73 100.0	1 1.4	2 2.7	2 2.7	14 19.2	5 6.8	4 5.5	4 5.5	8 11.0	0 0.0	33 45.2
グループホーム	11	35 100.0			1 2.9	5 14.3	3 8.6	4 11.4	10 28.6	4 11.4	0 0.0	8 22.9
地域密着型特定施設	1	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 100.0
介護老人保健施設	2	262 100.0				21 8.0	48 18.3	36 13.7	69 26.3	38 14.5	0 0.0	50 19.1
特別養護老人ホーム	3	115 100.0				0 0.0	0 0.0	17 14.8	24 20.9	27 23.5	0 0.0	47 40.9
地域密着型特養	2	19 100.0				0 0.0	0 0.0	3 15.8	8 42.1	8 42.1	0 0.0	0 0.0
合計	27	582 100.0	1 0.2	2 0.3	4 0.7	42 7.2	56 9.6	67 11.5	122 21.0	89 15.3	0 0.0	199 34.2

【参考】現在の入所・入居者数（問3）に占める退去者数（問8）の割合

(%)

	件数	合計	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
住宅型有料	3	52.6	-	0.0	0.0	6.3	0.0	27.3	25.9	15.4
軽費老人ホーム	1	8.0	0.0	0.0	25.0	33.3	0.0	-	-	-
サ高住	4	47.7	7.7	22.2	25.0	34.1	17.2	26.7	17.4	61.5
グループホーム	11	17.1			50.0	6.0	5.5	16.7	47.6	23.5
地域密着型特定施設	1	46.4	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	2	151.4				70.0	137.1	128.6	127.8	146.2
特別養護老人ホーム	3	36.9				0.0	0.0	16.7	17.8	38.0
地域密着型特養	2	32.8				-	-	17.6	28.6	61.5
合計	27	53.2	2.5	7.7	21.1	23.1	35.9	33.0	41.6	52.7

3-3 退去後の居場所の状況

問9 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。

退去者についての退去先は、全体では、死亡を除いて、市内「自宅」の割合が最も高く、次いで市内「病院・診療所」、市内「特別養護老人ホーム」、市内「介護老人保健施設」、市外「病院・診療所」が高くなっています。また、退去者に占める死亡の割合は44.7%となっています。

施設等別でみると、死亡を除いて、介護老人保健施設では市内「自宅」、サービス付き高齢者向け住宅では市内「介護老人保健施設」、グループホームでは市内「特別養護老人ホーム」、特別養護老人ホームでは市内「病院・診療所」の割合がそれぞれ最も高くなっています。また、退去者に占める死亡の割合は、地域密着型特定施設で100%、地域密着型特別養護老人ホームで84.2%、特別養護老人ホームで77.4%、住宅型有料老人ホームで75.4%となっています。

施設等別	件数	合計	自宅		住宅型有料老人ホーム		サービス付き高齢者向け住宅		グループホーム		特定施設		地域密着型特定施設		介護老人保健施設		療養型・介護医療院		病院・診療所		特別養護老人ホーム		地域密着型特別養護老人ホーム		その他	把握していない	死亡		
			市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外					
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合				割合	
住宅型有料	3	61	100.0	1.6	4.9	0.0	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	3.3	4.9	0.0	3.3	2	46	
軽費老人ホーム	1	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	2	
サ高住	4	73	100.0	6.8	1.4	0.0	2.7	4.1	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	17.8	0.0	0.0	0.0	4.1	5.5	6.8	1.4	0.0	1.4	0.0	1	33	
グループホーム	11	35	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	11.4	5.7	2.9	0.0	0.0	0.0	8.6	2.9	25.7	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	1	11
地域密着型特定施設	1	13	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	13	
介護老人保健施設	2	262	100.0	47.7	4.6	0.0	0.4	0.8	0.0	1.1	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	11.5	2.3	8.0	1.9	0.0	0.8	0.0	0	50	
特別養護老人ホーム	3	115	100.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4	0.0	0.0	3	9	6	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0	89	
地域密着型特養	2	19	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	16	
合計	27	582	100.0	22.5	2.7	0.2	1.0	1.2	0.2	0.7	0.2	0.2	0.3	1.0	0.3	3.4	0.2	0.5	0.5	7.9	2.9	6.2	1.4	0.7	0.5	0.5	3	260	

※退去後の居場所の「軽費老人ホーム」は、回答なしのため表示していません。
 ※問8の集計結果と死亡者数が大きく異なりますが、これは問8において死亡した退去者についても要介護度を回答した（「死亡」欄に人数を計上しなかった）施設が複数あったことが原因です。したがって、退去者のうちの死亡者数については、問8の結果より問9の結果の方が実情に近いと考えられます。

3-4 退去する理由

問10 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んでください。

入居・入所者が退去する理由は、全体では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」の割合が最も高く、次いで「その他」「入所・入居者の状態等が改善したから」「費用負担が重くなったから」の割合が高くなっています。

施設等別でみると、住宅型有料老人ホーム、介護老人保健施設以外のすべての施設等で「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」の割合が最も高くなっています。

	件数	上段：実数（人） 下段：割合（%）								
		増大した生活から必要なたから	増大した身体介護が発生	認知症の症状が悪化した	医療的ケアが高まったから	その他の状態像が悪化した	改善した入居者の状態等が	入所・入居者の利用を必要	費用負担が重くなった	その他
住宅型有料	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	2 66.7
軽費老人ホーム	1	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
サ高住	4	0 0.0	1 25.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	3 75.0	3 75.0
グループホーム	11	1 9.1	4 36.4	2 18.2	10 90.9	3 27.3	0 0.0	0 0.0	5 45.5	5 45.5
地域密着型特定施設	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
介護老人保健施設	2	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
特別養護老人ホーム	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	2 66.7
地域密着型特養	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
合計	27	1 3.7	7 25.9	5 18.5	22 81.5	3 11.1	9 33.3	1 3.7	9 33.3	15 55.6

※「その他」には「死亡」が含まれていると推測されます。

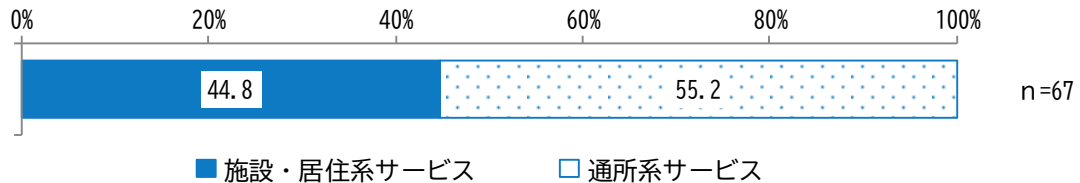
6 介護人材実態調査

(1) 施設系・通所系事業所調査

1-1 サービス種別

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（1つに○）

回答事業所（67件）のサービス種別は、「施設・居住系サービス」が44.8%、「通所系サービス」が55.2%となっています。

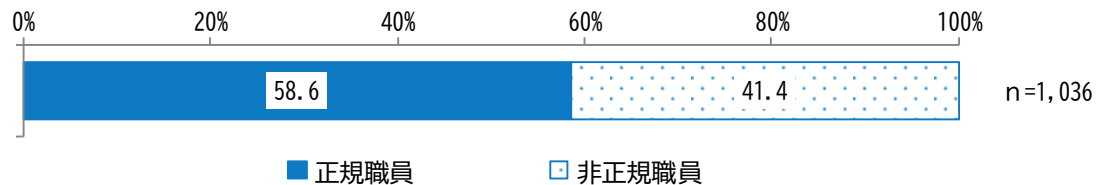


1-2 介護職員数と雇用形態

問2 貴施設等（問1で○をつけたサービス種別の施設等）に所属する介護職員について、お伺いします。

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

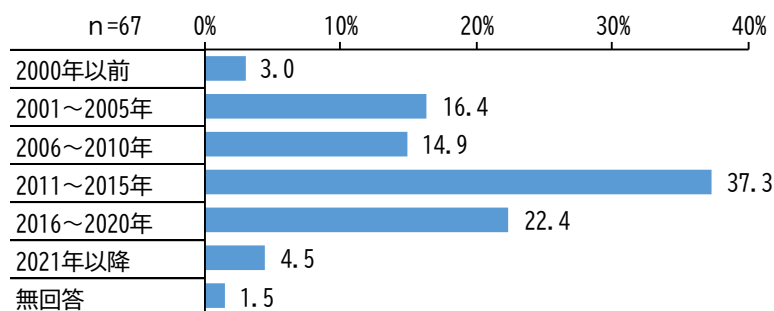
所属する介護職員の総数は1,036人で、正規職員は58.6%（607人）、非正規職員は41.4%（429人）となっています。



1-3 施設等の開設時期

問2-2 貴施設等の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

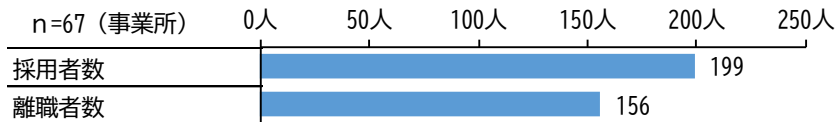
開設時期は、「2011～2015年」（37.3%）が最も高く、次いで「2016～2020年」（22.4%）となっています。



1-4 過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数

問2-3 令和4年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している施設等にお伺いします。過去1年間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。

過去1年間の介護職員の採用者数は199人（施設等当たり平均3.0人）、離職者数は156人（施設等当たり平均2.3人）となっています。



1-5 正規・非正規別及び年齢別の採用者数と離職者数

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。（数値を記入）

採用者を正規・非正規の別で見ると、正規職員が61.3%（122人）、非正規職員が38.7%（77人）となっています。

年齢別で見ると、正規職員としては20～29歳の採用が最も多く、非正規職員としては40～49歳の採用が最も多くなっています。

離職者を正規・非正規の別で見ると、正規職員が55.8%（87人）、非正規職員が44.2%（69人）となっています。

年齢別で見ると、正規職員・非正規職員のいずれとしても40～49歳の離職が最も多くなっています。

年齢	採用者数 (人)		
	正規職員	非正規職員	合計
20歳未満	13	4	17
20～29歳	44	11	55
30～39歳	14	18	32
40～49歳	27	21	48
50～59歳	10	14	24
60～69歳	10	5	15
70～79歳	1	1	2
年齢不明	3	3	6
合計 (人)	122	77	199
割合 (%)	61.3	38.7	100.0

年齢	離職者数 (人)		
	正規職員	非正規職員	合計
20歳未満	2	3	5
20～29歳	25	8	33
30～39歳	11	10	21
40～49歳	28	21	49
50～59歳	10	13	23
60～69歳	7	12	19
70～79歳	2	1	3
年齢不明	2	1	3
合計 (人)	87	69	156
割合 (%)	55.8	44.2	100.0

II 調査の結果 6 介護人材実態調査

サービス系統別でみると、施設・居住系では離職者数に占める正規職員の割合（62.0%）が高く、通所系では離職者数に占める非正規職員の割合（65.7%）が高くなっています。

昨年比でみると、施設・居住系では正規・非正規職員数ともに増加していますが、通所系では正規職員数は増加し、非正規職員数は減少しています。

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数(人)			採用者数(人)			離職者数(人)			昨年比※		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全 体 (n=67)	607 58.6	429 41.4	1,036 100.0	122 61.3	77 38.7	199 100.0	87 55.8	69 44.2	156 100.0	106.1%	101.9%	104.3%
施設・居住系 (n=30)	434 62.7	258 37.3	692 100.0	93 60.4	61 39.6	154 100.0	75 62.0	46 38.0	121 100.0	104.3%	106.2%	105.0%
通所系 (n=37)	173 50.3	171 49.7	344 100.0	29 64.4	16 35.6	45 100.0	12 34.3	23 65.7	35 100.0	110.9%	96.1%	103.0%

※昨年比は、「職員総数÷(職員総数-採用者数+離職者数)」で算出しています。

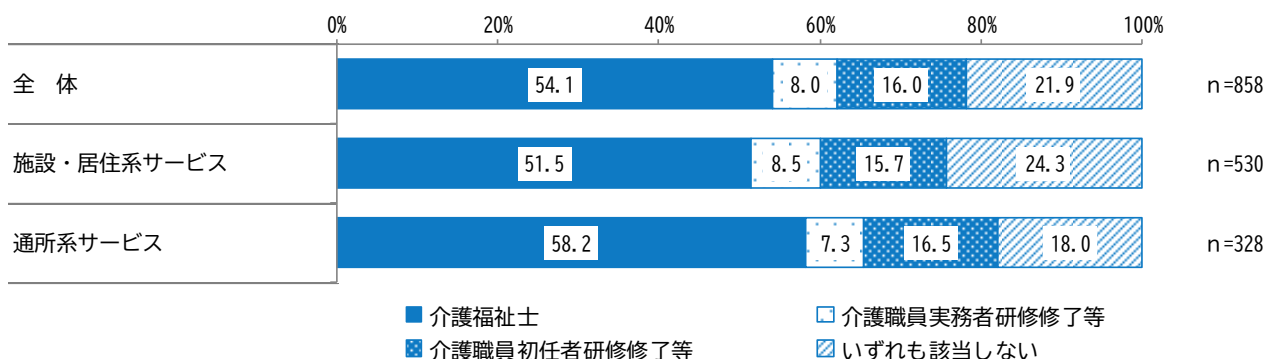
1-6 介護職員の資格保有の状況

問3 貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください。

(1) 資格の取得、研修の修了の状況（番号1つ記載）

問3で回答のあった介護職員（858人）の資格保有の状況は、「介護福祉士」（54.1%）が最も高く、次いで「介護職員初任者研修修了または（旧）ヘルパー2級」（16.0%）、「介護職員実務者研修修了または（旧）介護職員基礎研修修了または（旧）ヘルパー1級」（8.0%）となっています。また、「上記のいずれも該当しない」は21.9%となっています。

サービス系統別でみると、通所系で「介護福祉士」（58.2%）が高くなっています。

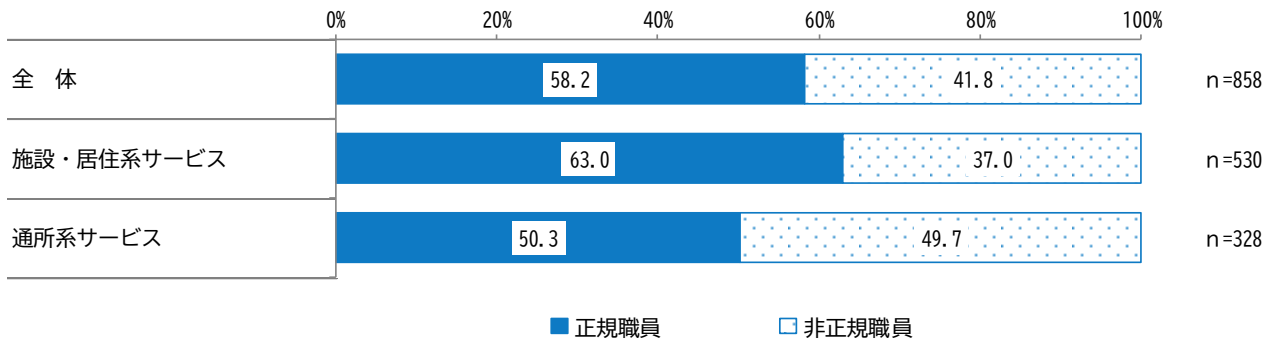


1-7 介護職員の雇用形態

(2) 雇用形態 (番号1つ記載)

問3で回答のあった介護職員の雇用形態は、「正規職員」が58.2%、「非正規職員」が41.8%となっています。

サービス系統別で見ると、施設・居住系で「正規職員」(63.0%)、通所系で「非正規職員」(49.7%)がそれぞれ高くなっています。

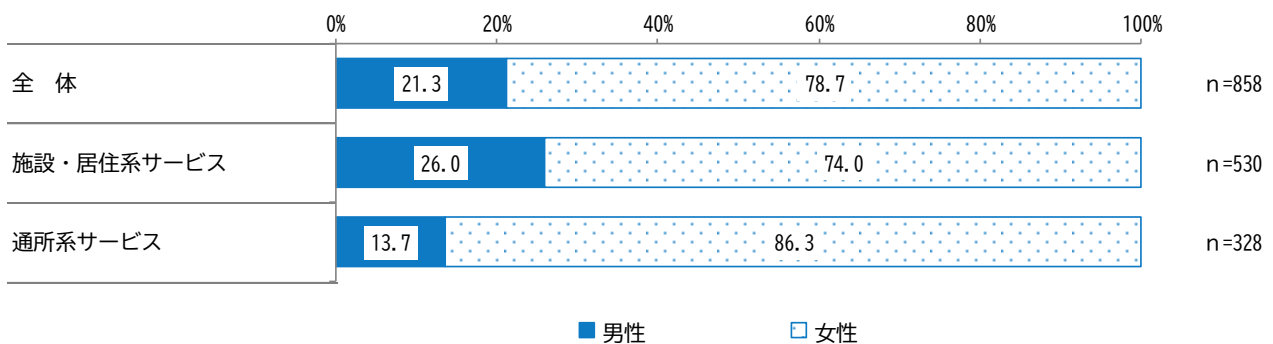


1-8 介護職員の性別・年齢

(3) 性別 (番号1つ記載)

問3で回答のあった介護職員の性別は、「男性」が21.3%、「女性」が78.7%となっています。

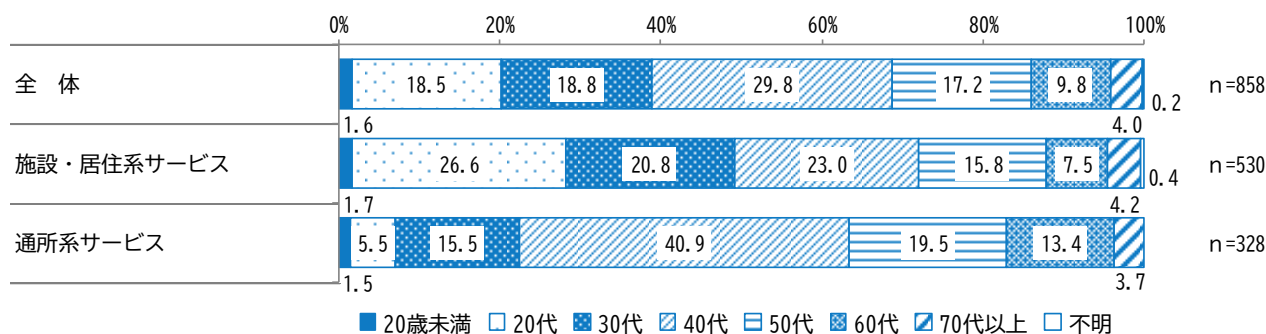
サービス系統別で見ると、通所系で「女性」(86.3%)が高くなっています。



(4) 年齢（番号1つ記載）

問3で回答のあった介護職員の年齢は、「40代」（29.8%）が最も高く、次いで「30代」（18.8%）、「20代」（18.5%）となっています。

サービス系統別で見ると、施設・居住系では「20代」（26.6%）が最も高く、通所系では「40代」（40.9%）が最も高くなっています。



1-9 介護職員1人当たりの1週間の勤務時間

(5) 過去1週間の勤務時間（数値を記入）

問3で回答のあった介護職員1人当たりの1週間の勤務時間は、全体で30.0時間、正規職員で35.3時間、非正規職員で22.4時間となっています。

サービス系統別で見ると、施設・居住系では全体で30.7時間、正規職員で34.8時間、非正規職員で23.7時間、通所系では全体で28.7時間、正規職員で36.3時間、非正規職員で20.7時間となっています。

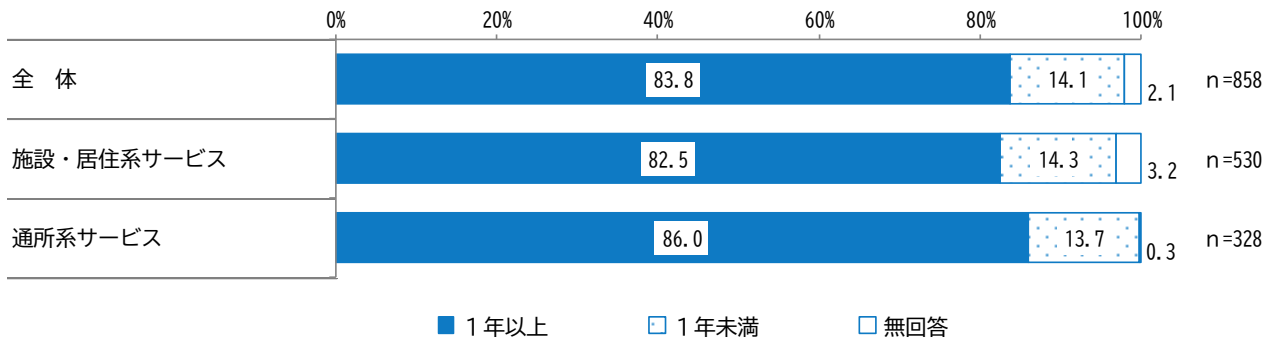
	(時間)		
	全体	正規職員	非正規職員
全体	30.0	35.3	22.4
施設・居住系サービス	30.7	34.8	23.7
通所系サービス	28.7	36.3	20.7

1-10 介護職員の現在の施設等での勤務年数

(6) 現在の施設等での勤務年数（番号1つ記載）

問3で回答のあった介護職員の現在の施設等での勤務年数は、「1年以上」が83.8%、「1年未満」が14.1%となっています。

サービス系統別でみると、「1年以上」は施設・居住系で82.5%、通所系で86.0%となっています。

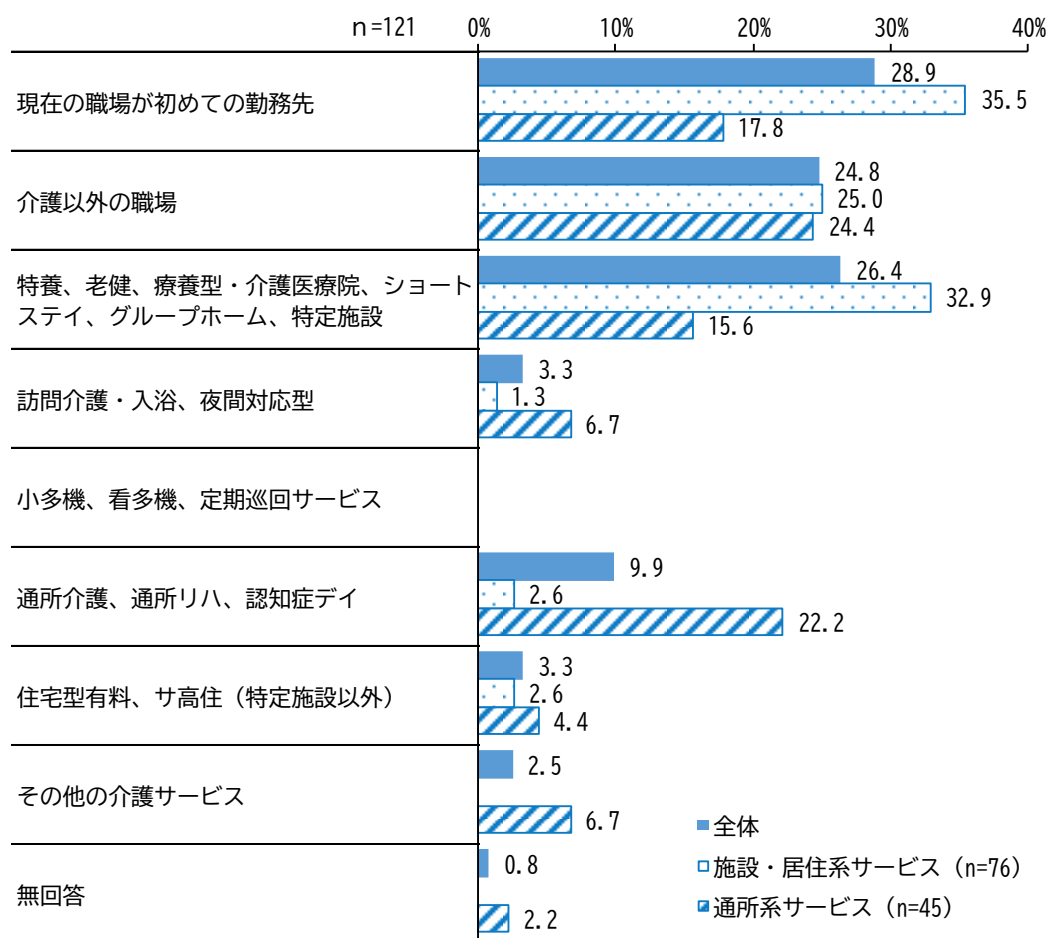


1-11 介護職員の現在の施設等に勤務する直前の職場

(7) 現在の施設等に勤務する直前の職場（番号1つ記載）

1-10 で現在の施設等での勤務年数が1年未満と回答した人の直前の職場は、「現在の職場が初めての勤務先」（28.9%）が最も高く、次いで「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」（26.4%）、「介護以外の職場」（24.8%）となっています。

サービス系統別で見ると、施設・居住系では「現在の職場が初めての勤務先」（35.5%）が最も高く、通所系では「介護以外の職場」（24.4%）が最も高く、次いで「通所介護、通所リハ、認知症デイ」（22.2%）となっています。

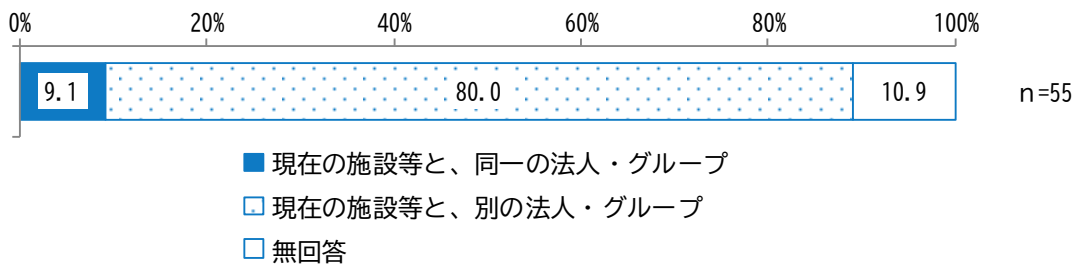
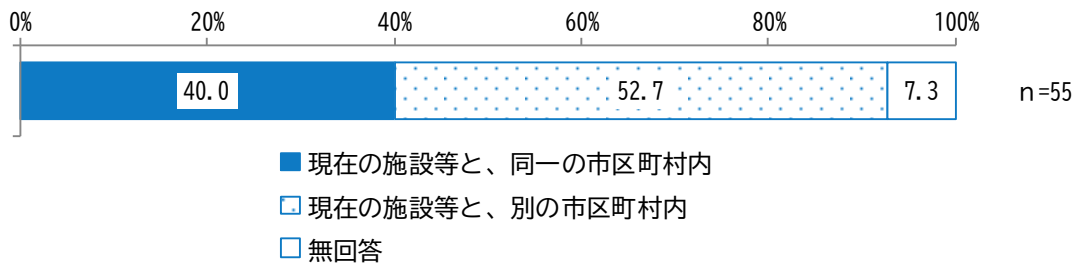


(8) 直前の職場について (番号1つ記載)

(場所) (法人)

直前の職場の場所は、「現在の施設等と、同一の市区町村内」が 40.0%、「現在の施設等と、別の市区町村内」が 52.7%となっています。

直前の職場の法人は、「現在の施設等と、同一の法人・グループ」が 9.1%、「現在の施設等と、別の法人・グループ」が 80.0%となっています。

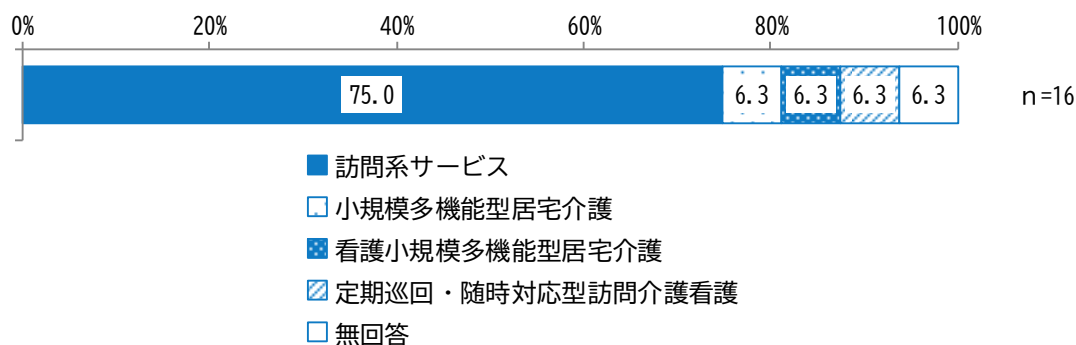


(2) 訪問系事業所調査【事業所票】

2-1 サービス種別

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（1つに○）

回答事業所（16件）のサービス種別は、「訪問系サービス」が75.0%、「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」がいずれも6.3%（各1件）となっています。

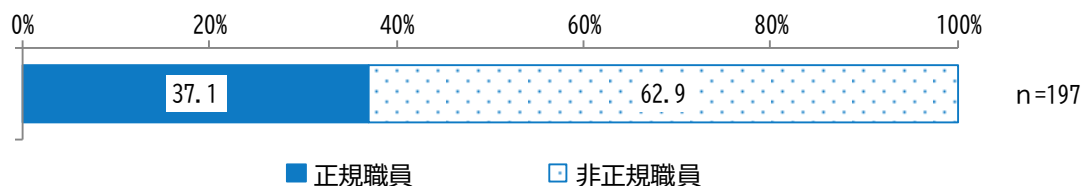


2-2 介護職員数と雇用形態

問2 貴施設等（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する介護職員について、お伺いします。

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

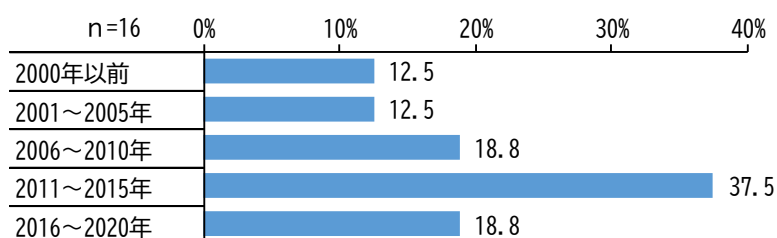
所属する介護職員の総数は197人で、正規職員は37.1%（73人）、非正規職員は62.9%（124人）となっています。



2-3 施設等の開設時期

問2-2 貴事業所の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

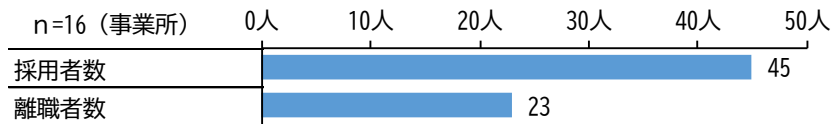
開設時期は、「2011～2015年」（37.5%）が最も高くなっています。



2-4 過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数

問2-3 令和4年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。過去1年間（令和3年12月1日～令和4年11月末日）の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。

過去1年間の介護職員の採用者数は45人（事業所当たり平均2.8人）、離職者数は23人（事業所当たり平均1.4人）となっています。



2-5 正規・非正規別及び年齢別の採用者数と離職者数

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。（数値を記入）

採用者を正規・非正規の別で見ると、正規職員が37.8%（17人）、非正規職員が62.2%（28人）となっています。

年齢別で見ると、正規職員としては40～49歳の採用が最も多く、非正規職員としては70～79歳の採用が最も多くなっています。

離職者を正規・非正規の別で見ると、正規職員が56.5%（13人）、非正規職員が43.5%（10人）となっています。

年齢別で見ると、正規職員・非正規職員のいずれとしても40～49歳の離職が最も多くなっています。

年齢	採用者数（人）		
	正規職員	非正規職員	合計
20歳未満	1	0	1
20～29歳	0	2	2
30～39歳	3	4	7
40～49歳	8	4	12
50～59歳	1	4	5
60～69歳	1	3	4
70～79歳	0	9	9
年齢不明	3	2	5
合計（人）	17	28	45
割合（％）	37.8	62.2	100.0

年齢	離職者数（人）		
	正規職員	非正規職員	合計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	3	0	3
30～39歳	2	0	2
40～49歳	4	6	10
50～59歳	0	2	2
60～69歳	3	1	4
70～79歳	0	1	1
年齢不明	1	0	1
合計（人）	13	10	23
割合（％）	56.5	43.5	100.0

昨年比でみると、訪問系では正規・非正規職員数ともに増加しており、特に非正規職員数の伸び率が大きくなっています。

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数 (人)			採用者数 (人)			離職者数 (人)			昨年比※		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
訪問系 (n=16)	73 37.1	124 62.9	197 100.0	17 37.8	28 62.2	45 100.0	13 56.5	10 43.5	23 100.0	105.8%	117.0%	112.6%

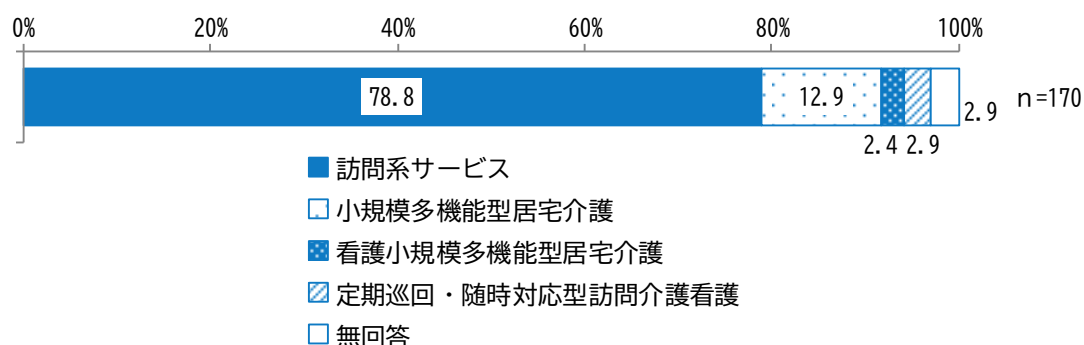
※昨年比は、「職員総数÷(職員総数-採用者数+離職者数)」で算出しています。

(3) 訪問系事業所調査【職員票／介護職員】

3-1 サービス種別

問1 あなたが、本調査票を受け取った事業所で提供するサービス種別（介護予防を含む）について、ご回答ください。（1つに○）

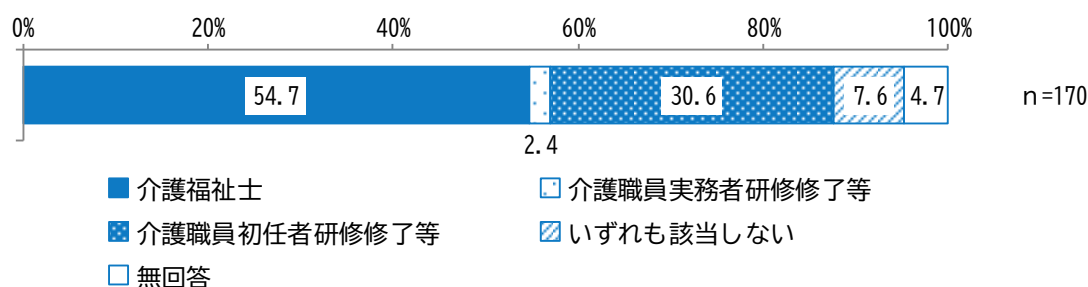
回答した介護職員（170人）の事業所のサービス種別は、「訪問系サービス」が78.6%、「小規模多機能型居宅介護」が12.9%、「看護小規模多機能型居宅介護」が2.4%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が2.9%となっています。



3-2 介護職員の資格保有の状況

問2 あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください。（1つに○）

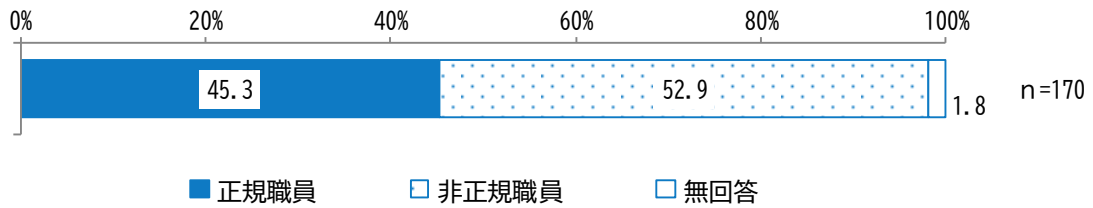
介護職員の資格保有の状況は、「介護福祉士」(54.7%)が最も高く、次いで「介護職員初任者研修修了または(旧)ヘルパー2級」(30.6%)、「介護職員実務者研修修了または(旧)介護職員基礎研修修了または(旧)ヘルパー1級」(2.4%)となっています。また、「上記のいずれも該当しない」は7.6%となっています。



3-3 介護職員の雇用形態

問3 あなたの雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。
1) 雇用形態 (1つに○)

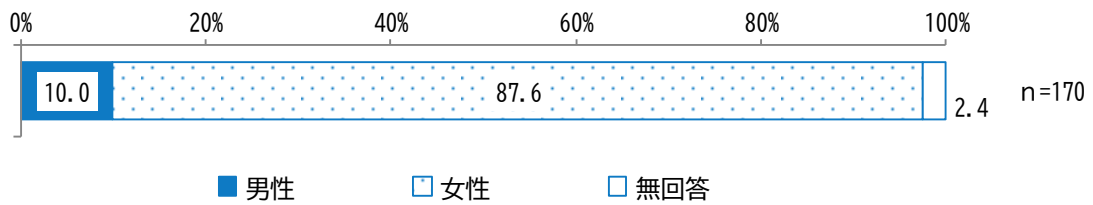
介護職員の雇用形態は、「正規職員」が 45.3%、「非正規職員」が 52.9%となっています。



3-4 介護職員の性別・年齢

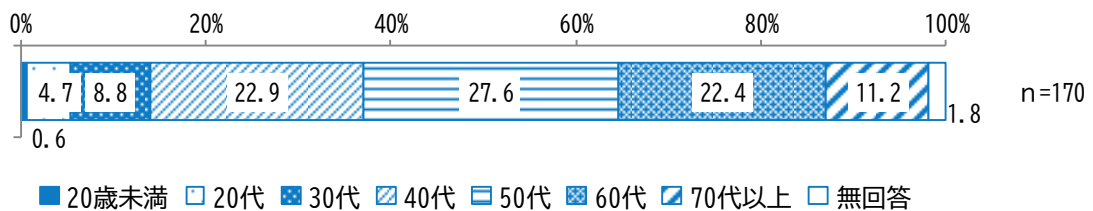
2) 性別 (1つに○)

介護職員の性別は、「男性」が 10.0%、「女性」が 87.6%となっています。



3) 年齢 (数値を記入)

介護職員の年齢は、「50代」(27.6%)が最も高く、次いで「40代」(22.9%)、「60代」(22.4%)となっています。



3-5 介護職員1人当たりの1週間の勤務時間

4) 過去1週間の勤務時間 (数値を記入)

介護職員1人当たりの1週間の勤務時間は、全体で22.2時間、正規職員で29.4時間、非正規職員で16.3時間となっています。

サービス種別でみると、訪問系では全体で20.1時間、正規職員で27.7時間、非正規職員で14.1時間、小規模多機能型居宅介護では全体で33.2時間、正規職員で40.0時間、非正規職員で28.0時間、看護小規模多機能型居宅介護では全体で25.0時間、正規職員で40.0時間、非正規職員で20.0時間となっています。

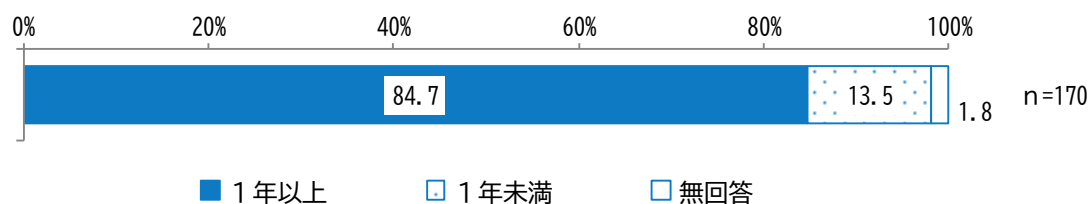
	(時間)		
	全 体	正 規 職 員	非 正 規 職 員
全 体	22.2	29.4	16.3
訪問系サービス	20.1	27.7	14.1
小規模多機能型居宅介護	33.2	40.0	28.0
看護小規模多機能型居宅介護	25.0	40.0	20.0

※定期巡回・随時対応型訪問介護看護の職員からの回答はありませんでした。

3-6 介護職員の現在の施設等での勤務年数

5) 現在の事業所での勤務年数 (1つに○)

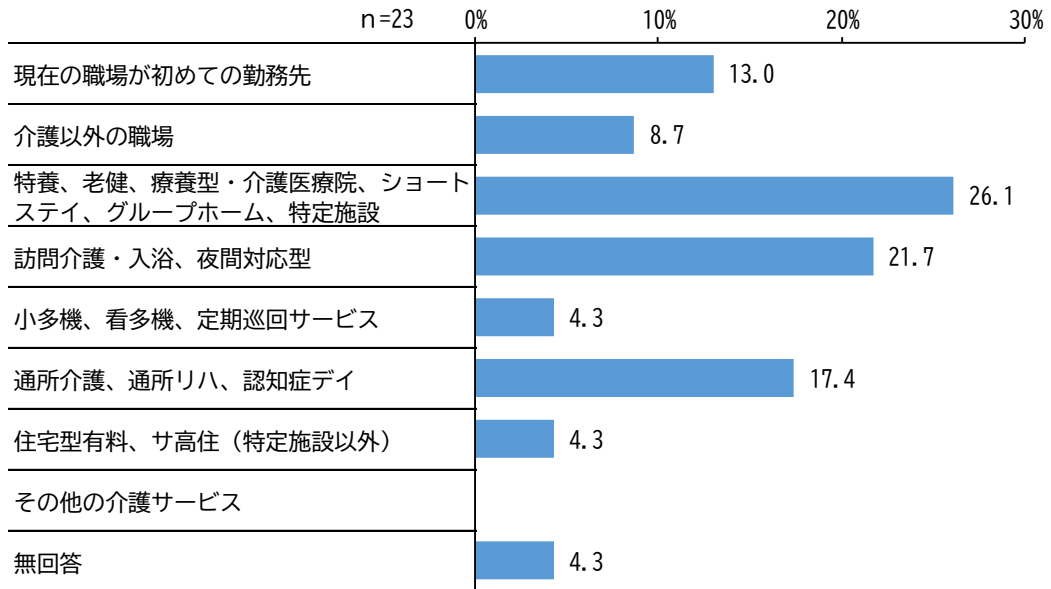
介護職員の現在の事業所での勤務年数は、「1年以上」が84.7%、「1年未満」が13.5%となっています。



3-7 介護職員の現在の事業所に勤務する直前の職場

問4 問3の 5) で「2. 1年未満」と回答された方に、お伺いします。現在の事業所に勤務する直前の職場について、以下にご回答ください。(1つに○)

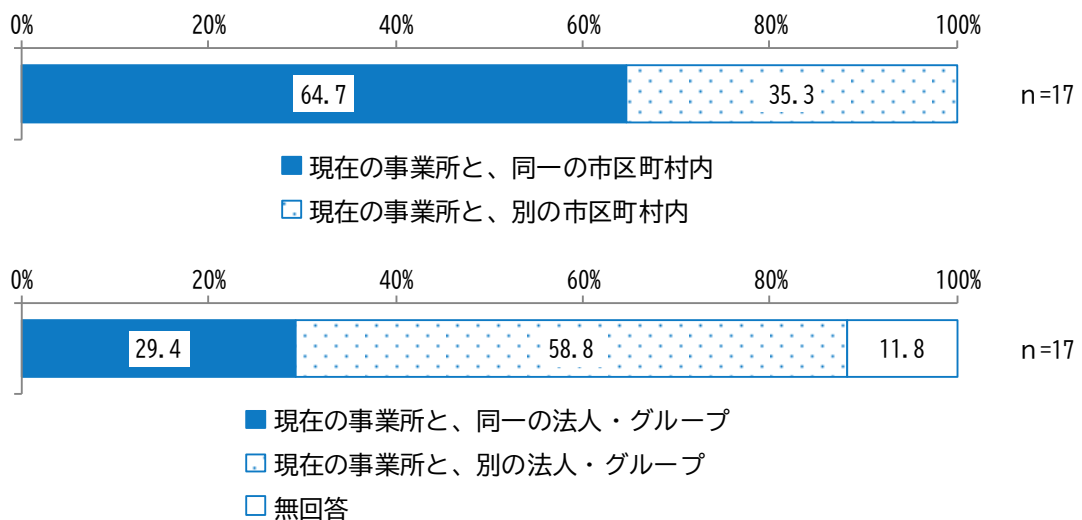
直前の職場は、「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」(26.1%)が最も高く、次いで「訪問介護・入浴、夜間対応型」(21.7%)、「通所介護、通所リハ、認知症デイ」(17.4%)となっています。



問5 問4で「3.」～「8.」と回答された方に、お伺いします。ご回答いただいた直前の職場について、以下にご回答ください。

直前の職場の場所は、「現在の事業所と、同一の市区町村内」が 64.7%、「現在の事業所と、別の市区町村内」が 35.3%となっています。

直前の職場の法人は、「現在の事業所と、同一の法人・グループ」が 29.4%、「現在の事業所と、別の法人・グループ」が 58.8%となっています。



(4) 訪問系事業所調査【職員票／訪問介護員】

4-1 介護給付による身体介護・生活援助の提供時間

「訪問介護」、「訪問入浴」、「夜間対応型訪問介護」、「訪問型サービス（総合事業）」、「定期巡回サービス」、「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」に従事されている方にお聞きします。

問3で回答した過去1週間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間（分）を記入してください。

■介護給付による訪問について

介護給付による訪問における身体介護・生活援助の提供時間について、1週間の合計をみると、総提供時間は64,045分で、内訳は身体介護が82.4%、生活援助／買い物が2.2%、生活援助／調理・配膳が3.2%、その他の生活援助が12.3%となっています。

	合計 (分)	身体 介護	買 い 物	調 理 ・ 配 膳	活 そ 援 の 他 の 生
月	11,380	9,205	345	305	1,525
火	10,255	8,685	100	355	1,115
水	10,175	8,200	160	425	1,390
木	11,020	9,550	225	245	1,000
金	11,450	9,235	335	390	1,490
土	6,460	5,430	130	210	690
日	3,305	2,490	85	90	640
週の合計	64,045 100.0	52,795 82.4	1,380 2.2	2,020 3.2	7,850 12.3

4-2 介護予防給付・総合事業による身体介護・生活援助の提供時間

問3で回答した過去1週間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間（分）を記入してください。

■介護予防給付・総合事業による訪問について

介護予防給付・総合事業による訪問における身体介護・生活援助の提供時間について、1週間の合計をみると、総提供時間は11,985分で、内訳は身体介護が60.2%、生活援助／買い物が1.9%、生活援助／調理・配膳が4.2%、その他の生活援助が33.7%となっています。

	合計 (分)	身体 介護	買 い 物	調 理 ・ 配 膳	活 そ 援 の 他 の 生
月	2,195	1,430	90	40	635
火	2,280	1,380	30	120	750
水	1,620	825	0	150	645
木	2,265	1,285	60	145	775
金	2,695	1,580	50	30	1,035
土	630	480	0	15	135
日	300	240	0	0	60
週の合計	11,985 100.0	7,220 60.2	230 1.9	500 4.2	4,035 33.7